

信大キャンパスと「あがたの森」

写真は私が若き大学時代を過ごした信州大学人文学部のキャンパスの入り口である。今は「あがたの森公園」や図書館の入口になっている。正面に見えるヒマラヤ杉は、昔と変わらない風情だ。このヒマラヤ杉のもとで、30数年前に大学「紛争」が展開された。キャンパスの入口にあった正門は、バリケードで封鎖されたこともあり、このあたりはやはり感慨深いものがある。

その下の写真は現在まで残されているキャンパスの一部だ。確か1階は教室、2階は演習室や教員室などがあったと思う。冬はきわめて寒い教室で、煙たい蒔きのストーブの火を灯したことが忘れられない。

演習室ではゼミや研究会などをやった記憶がある。2階建ての校舎の中に、当時から中庭があった。この中庭でよく「集会」が行われ、当時は元気だった学生たちの声、「演説」がこだましたものである。でも、こうして中庭の写真を見ていると、校舎とうまくマッチしていて、アメニティを感じさせてくれる。

その下の写真は、講堂にある会議室である。講堂は先日のレポートでも書いたように、滋賀大学の講堂とよく似ている。ヒマラヤ杉の木立に建つ講堂は、なかなかの風情がある。2階の会議室の窓を眺めていると、あの「こと」が鮮やかに想いおこされる。この会議室に閉じ込められ、下から多くの学生の声がこだました時のことを。それが信大人文学部の「紛争」の始まりでもあった。

最近「法人化」後の中期構想・中期計画づくりに忙殺されている。わが人間文化研究科・人文社会学部をどう方向づけていくかに頭を悩ませている。そんな時に滋賀大学の景観豊かなキャンパスを目にして、懐かしい信大「あがたの森」のキャンパスに思いを寄せた次第である。



(7月8日 記)